

26T-am08S

地域特産果樹を活用した生薬国産化研究：シテイ(KAKI CALYX)の有機成分による品種特性検証

○末元 吹季¹, 高浦 佳代子^{1,2}, 後藤 一寿³, 楠木 歩美¹, 高橋 京子^{1,2} (¹阪大院薬, ²阪大博, ³農研機構)

【背景・目的】「柿蒂 シテイ」は、日本薬局方外生薬規格に「カキノキ *Diospyros kaki* Thunberg の成熟果実の宿存萼」と規定される吃逆の軽減薬だが、有効成分や作用機序は不明で、指標成分の規定もない。第 135 年会以来、有効性や基原、医療ニーズを明らかにし、安全性・品質評価法を検討してきた。現在、国内需要量である約 1 t/年は全て中国産で、市場流通品の大半は萼片が欠如しており、1980 年以前の市場品や証拠標本類(阪大所蔵)の性状と異なる。そこで国産の規格厳守によるブランド化を志向して、原料品種や加工方法による品質特性の検証を行った。

【材料・方法】2014 年日本市場品(中国産品)2 検体及び、2016 年収穫の奈良県産品(県産品)5 検体を用いた。県産品は年間出荷量及び栽培面積の上位 3 品種(刀根早生・富有・平核無)を異なる 2 圃場から入手した。萼片の温存加工は障害者支援事業所と連携した。含有成分(有機物)に関する品質は液体クロマトグラフトンデム型質量分析(LC-MS/MS)により網羅的に測定し、主成分分析(PCA)により解析評価した。【結果・考察】LC-MS/MS を用いたカテキン類を主対象とした 27 成分同時分析を可能にし、抽出効率の良い試料調製法を選択することで、柿蒂中含有 8 成分の同時測定法を構築した。本評価法を用いた解析の結果、渋柿(刀根早生・平核無)と甘柿(富有)は異なるクラスタを形成した。一方、現在、実地臨床で使用されている中国産品はすべて渋柿由来だが、今回調製した奈良県産渋柿は中国産品と類似した成分パターンが示されたため、刀根早生・平核無の国産原料品種としての適性が確認できた。この結果は実地臨床における同等性検証の必須根拠となる。また同じ県産品において萼片の有無でクラスタが分離傾向にあることから、性状規格厳守によるブランド化の可能性を示した。